

HARD OFF ECOスタジアム新潟		鳥屋野運動公園（野球場）	
開設年月日	平成 21 年 7 月（築 14 年）	開設年月日	昭和 38 年 8 月（築 60 年）
施設写真		対応	H23 耐震診断で「地震に対し倒壊又は崩壊する危険性が高い」の判定 市財産活用推進計画の施設再編案において「存続」の方針 建替えを前提
		施設写真	
		現球場の規格	○収容人数 5,000 人 ○センター120m、両翼 97m、照明設備なし
年間利用者 (H30 年度)	212,298 人	年間利用者 (H30 年度)	25,484 人
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・収容人数 30,000 人 ○グラウンド：センター122m、両翼 100m、内外野とも人工芝 ○照明設備：プロ野球ナイトゲームに対応 ○その他施設：スコアボード（LED方式）、大型映像装置（430 インチ） ○付帯設備：屋内練習場（約 1,000 m²×2 面） 	現球場の現状・課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 駐車場不足による利用者からの不満が多い。 現在地で駐車場を拡大するには、新たに用地取得もしくは運動公園他施設の廃止や移転が必要。 ② 大会時には渋滞を引き起こし周辺住民の迷惑となっている。 ECOスタは既に稼働率が高く、オイシックス新潟アルビBCのNPBファームリーグ参戦により、新球場は今以上に中小規模の大会を受け入れる役割を果たすと予想されることから、アクセス面など利便性の向上や渋滞対策が必要。 ③ 市内で硬式野球の公式戦が開催できる球場である。 これまでの大会誘致における本市の優位性は、球場数と立地によるものが大きく、維持することが望ましい。 ④ 3 塁側スタンド後方からボールが飛び出し、駐車車両や隣接商業施設に被害を及ぼすことがある。 現在地では緩衝地帯を設けることが難しく、スタンドを高くするなどの対策が必要。 ⑤ ナイターがない。東区と中央区のナイター設備付き野球場は打球飛び出し問題を抱えている。 新球場がナイターを備え利用を移すことで、問題が大きく改善する。ただし、現在地でナイター設備にかかる用地を用意するには、駐車場を減らす、あるいは運動公園他施設の廃止や移転をしなければならない。（駐車場を減らすことは①に矛盾）